

「やや。」と(格助)言へ(格助)ど、いら(名詞)へ(格助)も(格助)せ(格助)で、逃(格助)げて(格助)て、

家(格助)に(格助)来(格助)て(格助)思(格助)ひ(格助)を(格助)る(格助)に、言(格助)ひ(格助)腹(格助)立(格助)て(格助)ける(格助)折(格助)は、

腹(格助)立(格助)ち(格助)て(格助)か(格助)く(格助)し(格助)つ(格助)れ(格助)ど、年(格助)ご(格助)ろ(格助)親(格助)の(格助)ご(格助)と(格助)養(格助)ひ

つ(格助)つ(格助)あ(格助)ひ(格助)添(格助)ひ(格助)に(格助)け(格助)れ(格助)ば、い(格助)と(格助)悲(格助)し(格助)く(格助)お(格助)ぼ(格助)え(格助)け(格助)り。

この(格助)山(格助)の(格助)上(格助)の(格助)よ(格助)り、月(格助)も(格助)い(格助)と(格助)限(格助)り(格助)な(格助)く(格助)明(格助)か(格助)く

て(格助)出(格助)で(格助)た(格助)る(格助)を(格助)眺(格助)め(格助)て、夜(格助)一(格助)夜(格助)、寝(格助)ら(格助)れ(格助)ず、

悲(格助)し(格助)く(格助)お(格助)ぼ(格助)え(格助)け(格助)れ(格助)ば、か(格助)く(格助)よ(格助)み(格助)た(格助)り(格助)け(格助)る、

わ(格助)が(格助)心(格助)慰(格助)め(格助)か(格助)ね(格助)つ(格助)更(格助)級(格助)や

姨(格助)捨(格助)山(格助)に(格助)照(格助)る(格助)月(格助)を(格助)見(格助)て

と(格助)よ(格助)み(格助)て(格助)な(格助)む、ま(格助)た(格助)行(格助)き(格助)て(格助)迎(格助)へ(格助)持(格助)て(格助)来(格助)に

ける。そ(格助)れ(格助)よ(格助)り(格助)の(格助)ち(格助)な(格助)む、姨(格助)捨(格助)山(格助)と(格助)言(格助)ひ(格助)ける。

慰(格助)め(格助)が(格助)た(格助)し(格助)と(格助)は、こ(格助)れ(格助)が(格助)よ(格助)し(格助)に(格助)な(格助)む(格助)あ(格助)り

ける。過去「けり」体

(伯母は)「これこれ」と言っけれど、返事もしない
で、逃げて、

家に帰ってきて(伯母のことを)思っていると、
(妻が伯母の悪口を)言っ腹を立てさせた時には、

(自分も)腹が立ってこのようにした(山に捨てた)
けれど、長年親のように養い続けて

一緒に暮らしてきたので、たいそう悲しく思われ
た。

この山の頂上から、月がたいそうこの上なく明るく
出ているのをぼんやりと眺めて物思いにふけり、

一晩中寝ることができず、
悲しく思われたのでこのように詠んだ、

私の心は慰められない。更級の

姨捨山に照る月を見ていると。

と詠んで、また行って(伯母を)迎えて連れて帰っ
てきた。それから後、姨捨山と言った。

『慰めがたい』というときに姨捨山を引き合いに出
すのはこれが理由(いわれ)であった。